

平成 26 年度国際協力報告会（東京地区）

平成 26 年 11 月 5 日、当国際ボランティア貯金センターの賛助会員並びに NGO 海外援助活動助成団体や国際ボランティア貯金の寄附金配分を受けた NGO の代表者やスタッフ、また一般の方々を対象とした第 20 回目の国際協力報告会を東京・秋葉原の「AP 秋葉原」にて開催しました。



初めに、海外の開発途上地域に対して、ODA（Official Development Assistance: 政府開発援助）の実施によりその地域の発展に協力している独立行政法人国際協力機構（JICA）国内事業部 市民参加推進課 主任調査役の川角みのり氏からは、JICA の NGO 連携と「世界の人々のための JICA 基金」と題しご講演をいただきました。

ODA の形態には多国間援助と二国間援助があり、この二国間援助の中に「技術協力」「無償資金協力」「有償資金協力」「国際緊急援助隊」「市民参加事業」があります。市民参加事業の「ボランティア事業」「草の根技術協力事業」「JICA 基金活用事業」について、活用法から支援範囲まで、インドで活動している NGO の活用事例も含めて説明があり、その他にも、企業の方が利用可能な JICA の取り組み（SCR 関連等）についてもお話をいただき、幅広い JICA の活動を知ることができました。



次に、ネパールのプジョン村に発電所と索道を設置した「徳島ネパール友好協会」理事早田健治様よりネパールでの山村支援活動について、当財団が実施した平成 25 年度 NGO 海外援助活動助成事業の助成金で索道の修復などを行った事業についてお話いただきました。発電所の設置で夜でも家で勉強をすることが出来るようになり、収穫した野菜などは女性や子どもたちが荷物を背負い山道を運んでいましたが、索道が設置されて、重労働が軽減されました。

また、平成 26 年度 NGO 海外援助活動助成団体であり、今年度当財団が実施する NGO 活動状況調査訪問団体である「ラオスの子ども」事務局長の野口朝夫氏からは、長年ラオスで実施してきたラオス語と書の出版と小中学校への配布、学校図書館の開設、子どもセンター（児童館）の運営支援についてご講演いただきました

終了後、参加者の方々と援助活動のご苦労や喜び、現地の情報や助成などに関する意見交換を行いました。